



←大井川

大井川の浅瀬で水生生物調査に取り組む児童ら。右はヒゲナガカワトビケラ類 = 島田市金谷河原地先

水生生物調査と河川防災講座 川の楽しさや怖さ学ぶ！

静岡県中央部を流れる大井川で8月5日（金）、島田市内の小学1年から6年までの児童90名と保護者約70名が参加して水生生物の調査を行った。国土交通省静岡河川事務所が主催し、島田市教育委員会が協力した。

この日の最高気温は31℃と真夏日。かなや大井川緑地に集まった児童らは、2班に分かれて浅瀬の川に入り、網ですくったり、岩をひっくり返したりして生物を捕まえ、川がどのくらい綺麗かを判断した。実際に川に入って調査することで、本当の川の様子を知り、身近な環境に興味を持ってもらうのが狙い。

職員から水の綺麗さによって棲んでいる生物が違ふと教えられ、熱心に魚や水生昆虫などを探した。「メダカがいたよ!」「手長エビが捕れた!」と見つけるたびに歓声が上がった。最も多かったのは「綺麗な水」と「やや綺麗な水」の両方に見られるヒゲナガカワトビケラ類で、児童らは自らが捕まえた生物を容器に入れ、生物名とその数を熱心に用紙に書き留めた。また、水質調査では、5種類のパックテストを行い、水素イオン指数（pH）や生物化学的酸素要求量（BOD）などを測った。川の水を入れた細長い管をのぞき込み、透視度も調べた。

島田第二小学校の塚本志孔真君（10）は、「水生生物調査は初めての経験でとても楽しかった。川の流れや川遊びでの注意点、川に架かっている鉄道橋の話など、いろんな話も聞け夏休みのよい思い出となった」と感想を話した。





頻発する自然災害から命を守るために

とみやす てるまさ

水生生物調査を終えた児童と保護者を前に、島田出張所の富安輝正所長は、昨年、関東東北豪雨によって鬼怒川が堤防決壊した様子を映したパネルを掲げ、「大井川も100年以上前ではあるが堤防が決壊した歴史があり、決して他の地域の話ではない。もしもの時に備え、普段から学校の先生や家族の方と避難の方法について話し合って」と呼び掛けた。児童らは土を掘るときに使用するバックホウの乗車体験や災害時に夜間作業で活躍する照明車の操作体験など、楽しみながら建設現場で働く機械の役割なども学んだ。



建設機械（バックホウ）の乗車体験



照明車の操作体験